

# 和大の留学志望者へ

タンメリッサ  
交換留学生 オーストラリア



Figure 1: 和歌山大学「デザイン情報学入門」和歌山大学キャンパスに

オーストラリアと日本は文化的に全く異なり、特有な文化は歴史から発されました。この違いは、日本人とオーストラリア人の日常生活を比べると分かりやすいです。和歌山県にいる私は直にこの文化の違いを体験しました。特に店や交通機関での払い方、及び会話するときの丁寧語や敬語の有無です。

多くの国同様、オーストラリアもキャッシュレス社会です。取引のほとんどは、クレジットカードやデビットのような IC カードで支払いをします。早くて便利なスマホでの支払いが、さらにキャッシュレス社会かを加速させています。そのため、バス、電車、船などのオースト

リアの交通機関システムも一枚の IC カードで乗ることができます。しかし、日本は社会的に現金に大変依存しています。「タンス貯金」という表現を見ると、キャッシュレス社会化への日本人の抵抗心を感じます。デパートやコンビニ等ではカードで払う選択肢がありますが、小さな店ではカード払いできる場所は少ないです。従って、人々は常に大金を持ち歩くしかなく、おそらく外国人は不便に感じるでしょう。和歌山から大阪に遊びに行く交通費、食費及び交際費のために少なくとも一万円が必要です。けれども大金を必ず持って行かなければならないだけでなく、バスで IC カードが使えないため運賃のための細かいお金を十分に準備するのも必要です。キャッシュレスの生活の留学生が、和歌山の現金中心の生活に慣れるのに多くの時間がかかりました。

文化の違いの二つ目は、言語です。日本語と異なり、ビジネスのメール等に決まった言い方がありますが、英語は敬語がほとんどありません。日本には、昔から社会階層は社会的に大部分の一つとなり、現在も上司と下司の差が歴然であります。一方でオーストラリアはイギリスの直民地になり、大部分の人口は前科者でありました。その結果、オーストラリアにはカジュアルな言葉や表現を使う人が多いです。要するに、「フォーマル」と

Figure 2: 間違った体を使うと上司に怒られる「いらすとや」(2018)



「インフォーマル」の差があまりないということです。日本語は普通体（タメ語）と丁寧体と分かれてれます。丁寧体は5分類があり、丁寧語、尊敬語、謙譲語、丁寧語と美化

語という分類です。日本人は、状況により、それらを駆使していますが、留学生の私は非常に混乱しています。上司に普通体で話すとおそらく怒られますが、親友に敬語で話すのも敬遠しているように見えます。敬語のない社会で育った私は、日本語で話す度に丁寧さを調整するのは現在も難しいです。タメ語を使うのは易しいですが、数年間日本語を勉強しているのに先生に出会うとき、または人と初めて会うときは大変しんどくなります。私のように関西に住んでいると、敬語は関西弁と共に日本語で話す際に最も問題となるものです。けれども、日本に来たことにより、日本の文化にいきる敬語の重要性に気付かされ、また、それを生活の中で自然に習得できるようになりました。

オーストラリアと日本は、歴史的な背景からくるような文化の違いがあります。この違いは、異なる国で生活してこそわかるものです。その違いを理解することにより、その国でさらに暮らしやすくなるだけでなく、世界に対する視野を広げる良い方法の一つでもあります。良い勉強になるために、機会があったら是非日本に来てください。

いらすとや「怒る男性の上司のイラスト（三段階）」いらすとや（最終閲覧日：2018年10月13日）

[https://www.irasutoya.com/2018/10/blog-post\\_267.html](https://www.irasutoya.com/2018/10/blog-post_267.html)

「デザイン情報学入門 和歌山大学キャンパスにて」岸和田サテライトの毎日（最終閲覧日：2013年5月20日）

<http://blog.livedoor.jp/agent930/archives/52131380.html>